

今月の谷口雅春先生のお言葉

# わが子の才能を引き出す言葉の力

子供の才能が現われ出ようとする「今」を生かす

皆さんが子供の天分を伸ばそうとお考えになりましたならば、その子供から自然に内在の才能が現われ出ようとする時期に、その現われ出ようとする生命を生かすように、培う<sup>つちか</sup>ように、引き出すようにしなければならぬのであります。(中略) 父兄<sup>ふけい</sup>、保護者、教育者たるものは「今」出ようとする子供の才能を見逃してはならないのであります。誠に「今」こそいっさいの生活を支配する鍵<sup>かぎ</sup>であります。何よりも「今」が大切なのであります。

それですから、「今」しようと思っている時に、「今」したいと思っている時に、その出ようとしているものを抑えつけて出さないようにしましたならば、その発現しようとしているエネルギーは、ややもすればその抑圧<sup>よやく</sup>によって窒息<sup>ちっそく</sup>してしまうことになるのであります。たとえばわれわれが、文章を書くという時に、何かインスピレーションというものを感じて「今」書きたくてならない衝動<sup>しょうどう</sup>が内から起こっている。その時に何か邪魔<sup>じゃま</sup>が這入<sup>はい</sup>って書けないようなことがありますと、今度書こうと思ってもなかなかそのインスピレーションを感じた時のようには思い出せない。思い出すにも非常な努力<sup>い</sup>が要るわけ

で、努力して出て来ましても神徠しんらいのとおりには出て来ないのであります。これによって考えましても、一ぺん能力が出ようとした時に、いったん抑えてまた今度出そうとするならば、ひっぱり出す操作に非常な努力を要よし、その結果もはなばなしくないので、二重三重の損失を受けることになることがおわかりになりました。それですから、内部から才能が出よう出ようとしている時に、出すように引き出すようにするのが、子供の教育の極意ごくいになるわけであります。

（『生命の實相』頭注版第30巻43〜44頁）

## 才能を発掘するには

才能を発掘はっくつするのは鉱山を発掘するのと同じことである。先まず発見することが必要である。才能の場合には見ることが発掘することになるのである。毎日毎日諸君は自分の内に埋藏まいざうされている神の生命を、精神を統一して

ジツと見詰みつめるが好いのである。（中略）静かに目を瞑とじて「私は神の子である、無限の力が与えられているのである、私はこの方向にその無限の力を発掘しよう」と希こいながうのである。その方向に私の無限の力は毎日一層多く発掘されて来るのである」と云いうような言葉を繰返くりかえし念じながら、静かに呼吸を深くして精神を統一するならば、この方法は回を重ねるに従って、内在する無限の力が喚よび覺さされて来て、自分の求もとむる方向に才能が発揮はっけされることになる。此この思念を繰返し行えば必ず効果がある。

（新装新版『真理』第8巻130〜131頁）

## 言葉の力によって無限の力をひき出す

善い事を内からひき出すことが本当の教育である。そしてそれを引き出すには、「言葉の力」によるというのであります。（中略）言葉によってすべてのものは生きて来るのであります。日本人は古来、人を命みことといった。

ミコトとは「言葉」のことです。神さまのことを英語では“God”といますが、それは言葉の「コト」が濁って「ゴト」となったのであります。言葉こそ神である。神はすべてのものの創り主であります。言葉で子供に、「お前は悪い子だ」といったら悪くなります。「きっとお前は偉いものになる」といったら必ずよい子になるのであります。「言葉の力」によって吾々の中に無限の力をひき出すことも出来るのでありますし、善き言葉で善き性質を伸ばすことも出来るのであります。

(新編『生命の真相』第22巻27～29頁)

「できる」と信じた通りの力が出る

「私は神の子で、いつも楽しい」と毎日心の中で唱えるようにしていますと、本当に楽しくなって、勉強でも仕事でも何でも立派にできるようになるのであります。(中略)

人間は、自分が自信をもっている程度より以上には偉

くなれるものではありません。ナポレオンがアルプス山脈を越えることができたのは、アルプス山脈を越え得られるという自信があったからであります。「心」に「出来る」ということを考えないでいて、出来ることは一つもないのであります。出来ると思じた程度の通りにできるのであります。どんなに学問があり、能力があり天才があらましようとも、出来ないと思っている限りは何もできないのであります。

世の中には立派な才能を持ちながら、自分自身はできないと思っているために、何の働きも世の中に捧げることができずに、一生涯を無駄に過してしまふ人も随分多いのであります。(中略)

ともかく人間は信ずる通りになるのでありますから、自分自身を信じなさい。どんな力でも信じた通りに出て来るのであります。(新版『生活読本』180～182頁)

